

# 大津企業景況調査報告書

(第58回)

平成24年 7月～ 9月期 実績

平成24年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成24年7月～9月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

## 2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	16社	80.0%
製 造 業	10社	10社	100.0%
卸 売 業	10社	10社	100.0%
小 売 業	30社	23社	76.6%
サービス業	30社	23社	76.6%
合 計	100社	82社	82.0%

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成24年7月～9月とし、調査時点は平成24年9月1日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

## 景況は停滞感

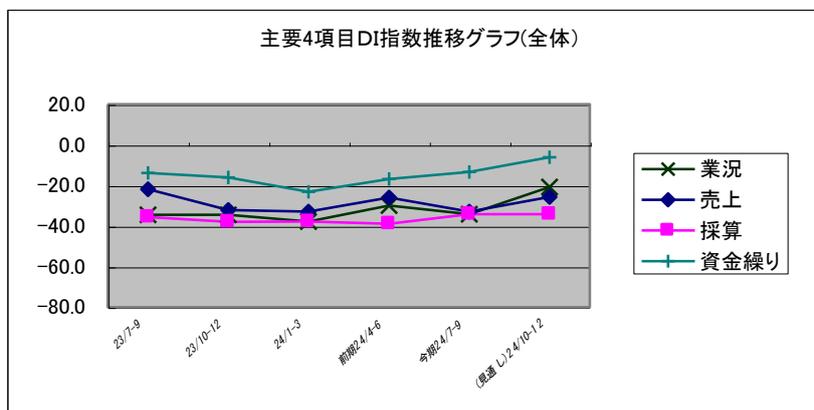
平成 24 年 7 月～9 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況は、全体では業況判断 DI（前年同期比）が 1 年半も▲30 前後が続くなど停滞感がでていいる。省エネ関連製品の受注増加などから製造業が改善したが、卸売業は大幅悪化が続いており、他の業種も悪化が続いている。

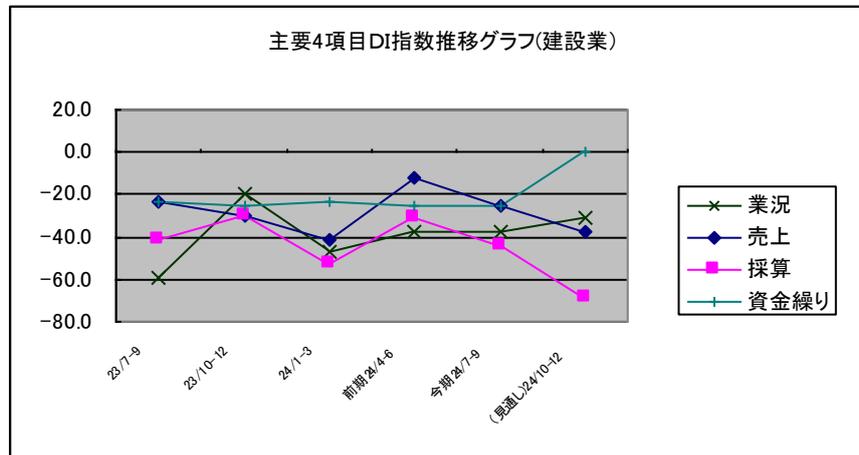
先行き見通しは、ほぼすべての業種で改善すると見込んでいる。ただし今回の調査は中国で反日デモが始まる前に実施しておりその影響は含まれていないが、中国との関係が各所で深まっておりその影響を注視する必要がある。

- **業況判断 DI（前年同期比）はやや悪化。業種別は卸・小売業が悪化、製造業改善**  
「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期▲30 から今四半期▲34 と 4 ポイント悪化し停滞が続いている。卸売業は低水準がさらに悪化し小売業も悪化したが、製造業は省エネ関連製品の受注増加などから改善した。建設業、サービス業はほぼ横ばいで推移した。
- **売上 DI（前年同期比）はやや悪化。業種別は卸・小売業が悪化、製造業は前年並み**  
「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲26 から今四半期▲33 とやや悪化した。業種別にみると、卸売業はさらに悪化し小売業も悪化したが、建設業もやや悪化した。製造業は前年並みで推移している。
- **採算 DI（前年同期比）はやや改善。業種別は製造業、小売業、サービス業が改善**  
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期▲39 から今四半期▲34 でやや改善した。業種別にみると、製造業、小売業およびサービス業が改善したが、卸売業は悪化した。
- **資金繰り DI（3 ヶ月前比）はやや改善**  
「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲17 から今四半期▲13 とやや改善した。業種別にみると、製造業、小売業およびサービス業で改善し、卸売業で悪化した。建設業は横ばい。
- **従業員 DI（前年同期比）は卸売業のみ人員過剰で他業種は適正人員**  
「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+9 が今期▲2 とまた人員過剰になった。業種別にみると、卸売業のみで人員過剰になっているが、他の業種は適正人員になっている。



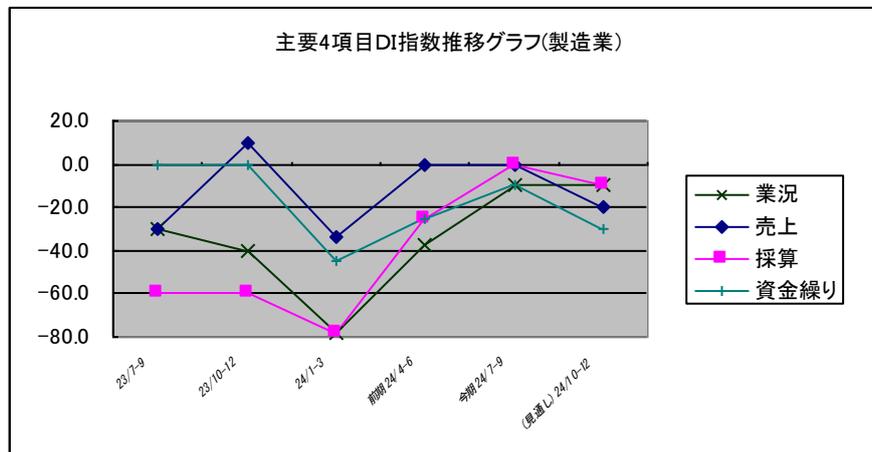
## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は今四半期も▲38 と横ばいである。しかし個別指標では「売上」が前四半期の▲13 から今四半期▲25 と悪化し、「採算」が前四半期の▲31 から今四半期は▲44 と悪化して「採算水準」が前四半期の+6 から今四半期▲44 と赤字になったことおよび「取引の問合せ」も前四半期の▲38 から今四半期▲44 と悪化しており、悪化傾向を示している。



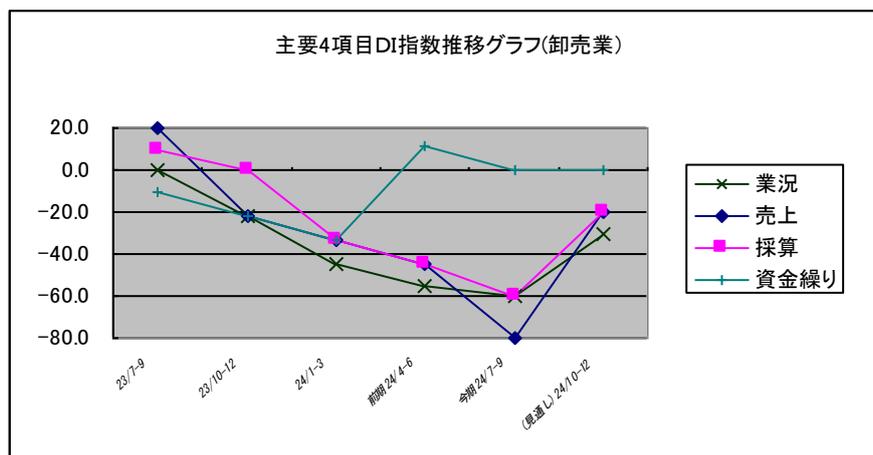
## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲38 から今四半期は▲10 と引き続き大幅改善した。「売上」は前四半期と同じく今四半期も前期並み(±0)が続いている中で、「採算」が前四半期の▲25 から今四半期は±0 と改善したこと、資金繰りも改善していることが要因とみられる。「従業員」は前四半期の+25 の人員不足から今四半期±0 の適正人員になった。



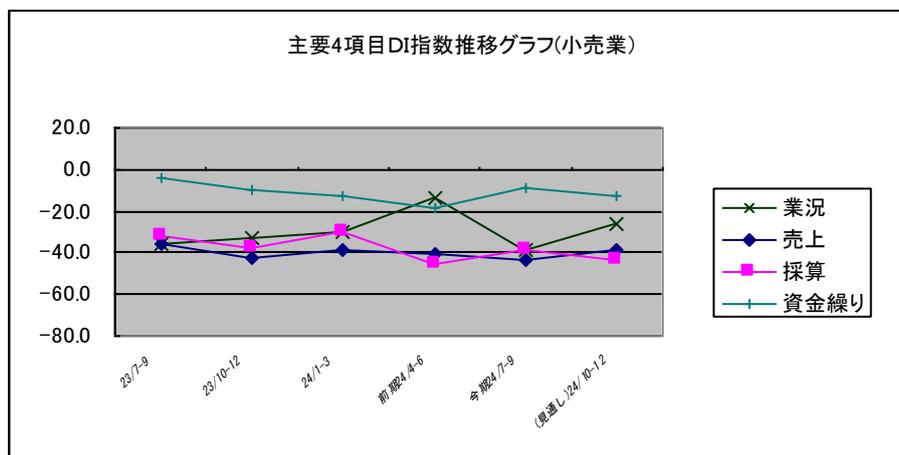
### 卸売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲56から今四半期は▲60にさらに悪化した。これは「売上」が前四半期の▲44から今四半期▲80と大幅減少したことに加え、「採算」が前四半期の▲44から今四半期は▲60に悪化したためとみられる。「取引の問い合わせ」も低調な状況が続いている。「従業員」は前四半期の過不足なしから人員過剰となった。



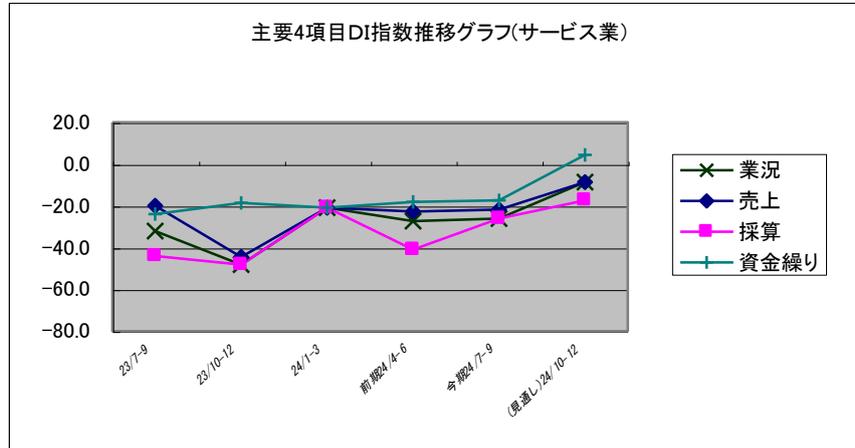
### 小売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲14から今四半期は▲39と悪化した。「売上」は前四半期の▲41から今四半期▲44と小幅減少したが、「採算水準」が前四半期の▲9から今四半期▲22に悪化したことによるものとみられる。「取引の問い合わせ」は小幅悪化している。「従業員」は前四半期の+9と人員不足から今四半期±0(過不足なし)になった。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲27 から今四半期は▲26 とほぼ横ばい。「売上」は前四半期の▲23 から今四半期▲22 と減少傾向変わらないが、「採算」は前四半期の▲41 から今四半期▲26 に改善した。「従業員」は前四半期の+9 の人員不足から今四半期±0(過不足なし)になった。



3ヵ月後の見通しについては、製造業はじめすべての業種で改善すると見込んでいる。全体の「業況」は、今四半期の▲34 から▲21 に改善する見通し。「売上」は7ポイント改善して▲26、「採算」は横ばいで▲34、「採算水準」は19ポイント改善して▲1の見通しである。

「業況」見通しを業種別にみると、製造業が横ばいで▲10の見込みであるが、その他の業種では卸売業が30ポイント改善して▲30を見込んでいるのははじめ全ての業種がそれぞれ改善するとみている。

ただし、今回の調査は中国で反日デモが始まる前に実施しておりその影響は含まれていないが、中国との関係が各所で深まっておりその影響を注視する必要がある。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期から1ポイント減少して今四半期21%となった。製造業が8ポイント減少して30%、建設業が6ポイント減少して19%、小売業は10ポイント減少して17%になった。他方、卸売業、サービス業では増加している。製造業は中国や欧州の経済の減速や生産の動きが弱くなっている影響が、小売業では業況判断との連係がみられる。投資企業の投資内容の割合は更新投資が32%で最も多い。投資方針は、「今後の景気に拘らず計画通り」とする企業が53%になった。これは更新投資の比率が高いためとみられる。

ただし、中国で反日の動きが長期化すると、業況に影響が出てくるとみられるので、今後の設備投資についてもより慎重な動きになると予想される。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

## (今の経済情勢に対する意見)

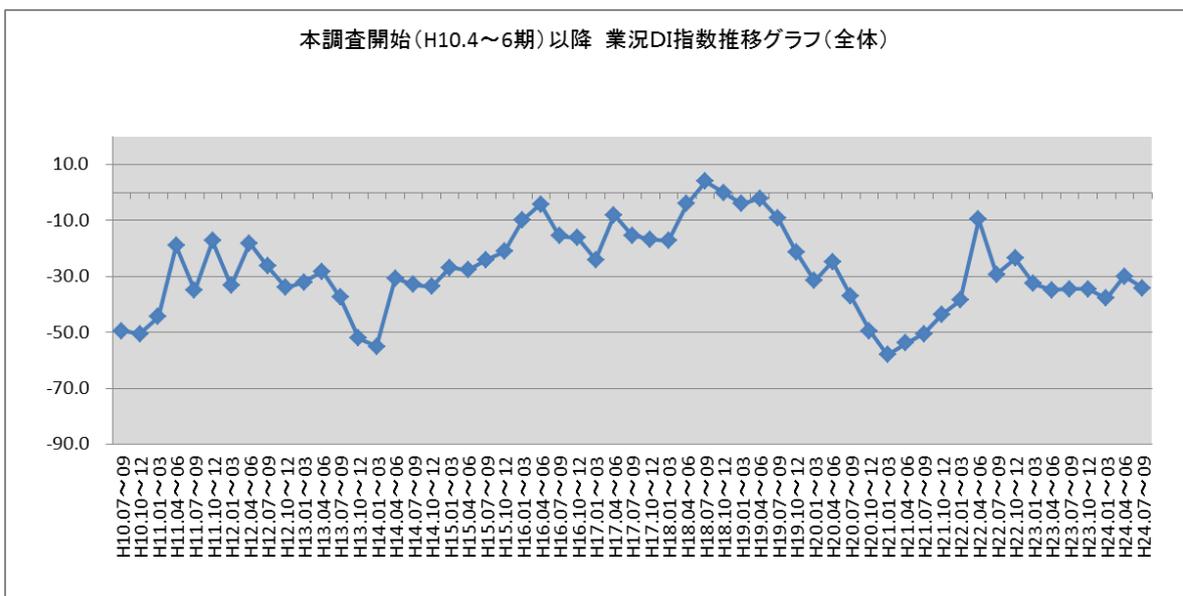
今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は8社であった。

- 水害被害にあいましたが、休み中だった為、生産に影響は無く助かりました。
- 中小の製造業は先行きが予想できず、常に不安がつきまとう。
- 私ども昔からの商売人の未来はない時代になっています。このままでは、小売業者は生きていけません。皆様の意見を是非おききしたく思います。
- 「難しい」 小売業にとって、顔の見えないお客様（オンラインショップ）を、どの様に集客し、リピート頂くかは、確率を高める方法論を考える事でしか、見えてこない。そこに笑顔はいらぬ。と感じます。
- 東日本大震災以降、原発問題の対応のまずさにより、電力需給の逼迫を招くなど、経済の根幹に関わるエネルギー問題に対し、何の手立てもしない政府は経済界の混迷に拍車をかけ、工場の海外移転等、産業の空洞化を進め、雇用の喪失に繋がっていきます。早く現実を捉えたエネルギー政策を打つよう、商工会議所も行政に対し強く要望すべきであると考えます。
- ソーラパネル事業がシャープブランドの悪化で低調になる、暑い夏でしたので仕事量が低下、秋に期待！
- 国の省エネ対策、補助金の動向で売上が左右されている。
- 「特例公債法案」可決の遅延化により、地方自治体の工事、業務発注が無く、事業活動が大きく減退しているのが現状であり、一日も早く地方自治体が事業発注できるようにしてほしい。

DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 34.1	▲ 20.7	▲ 32.9	▲ 25.6	▲ 34.1	▲ 34.1
建 設 業	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 43.8	▲ 68.8
製 造 業	▲ 10.0	▲ 10.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 10.0
卸 売 業	▲ 60.0	▲ 30.0	▲ 80.0	▲ 20.0	▲ 60.0	▲ 20.0
小 売 業	▲ 39.1	▲ 26.1	▲ 43.5	▲ 39.1	▲ 39.1	▲ 43.5
サービス業	▲ 26.1	▲ 8.7	▲ 21.7	▲ 8.7	▲ 26.1	▲ 17.4
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 19.5	▲ 1.2	▲ 41.5	▲ 23.2	▲ 2.4	7.3
建 設 業	▲ 43.8	▲ 12.5	▲ 43.8	▲ 37.5	0.0	12.5
製 造 業	0.0	20.0	▲ 30.0	▲ 20.0	0.0	10.0
卸 売 業	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 50.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 20.0
小 売 業	▲ 21.7	▲ 8.7	▲ 34.8	▲ 21.7	0.0	4.3
サービス業	▲ 13.0	8.7	▲ 47.8	▲ 13.0	0.0	17.4
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資 金 繰 り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 13.4	▲ 6.1	▲ 12.2	▲ 8.5	▲ 8.5	▲ 4.9
建 設 業	▲ 25.0	0.0	▲ 12.5	0.0	12.5	12.5
製 造 業	▲ 10.0	▲ 30.0	0.0	▲ 10.0	0.0	0.0
卸 売 業	0.0	0.0	0.0	10.0	▲ 10.0	10.0
小 売 業	▲ 8.7	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 4.3	▲ 4.3	▲ 4.3
サービス業	▲ 17.4	4.3	▲ 30.4	▲ 26.1	▲ 30.4	▲ 26.1
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



## 大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>